面白い仮説

日本の高校に留学していたアメリカ人の女性にLife Chopsの動画を見せて感想を伺った所「漠然としていて、曖昧、濁す部分が多いので、１から１０まで説明しないといけない日本人には、具体性が足りないのでは？」と言われました。

日本語は言語的に主語が無いと言われる言語であり、漠然とした、曖昧とした、示唆をほのめかす事が多い言語であり、論理よりも情緒が発達していて、言葉にしない事、１から１０を説明しない事を美しいとする文化であると言うのはあらゆる文献を通して、学んできました。

となると、察する事が大切であると言う言い方も出来て、質問をする事が少なくなる。理解したかどうか？と言う確認でさえも、突き詰める事なく曖昧な状態で終わってしまう。日本人が暗記教育を好むのも、文化的な背景と言語的な構成が多大に関わっているのではないかと仮説します。

と言う事で、日本の教育、教育からなる思考方法などの欠陥が見えたのような気がします。それは、

・あらゆる事を事細かに、１から１０まで説明する事

・質問を促すような環境を作るか、無理矢理にでも質問するようにする事

アメリカ人女性の発言に戻ると矛盾しているんですよね。

日本人は１から１０まで説明しないといけない。だけど、ほのめかす文化である日本では中々、それがされない。暗記教育だからこそ、その欠陥である思考力の無さを補うためには１から１０を説明しないといけない、なのに文化的言語的な理由からそれが難しい。

と言う事で、この理論を応用すると、

・TEDや本の要約などの大きなアイデアを紹介するコンテンツは日本人には効果が薄い。何故なら、大枠を掴んだ所で、それを応用する思考力がないから。

と言う一つの見方が出来るわけで、日本人がするべきは、１から１０を学んで、事細かな事例を身に付ける事ではないかと思うのです。

と言う事は、このチャンネルの動画は、TEDトークのように、大枠だけを教えるだけで、日本人の多くの皆様には役に立たないのではないかと思ってきましたし、より明確な文章を書かないといけないと強く思いました。

そもそも、思考する必要が無い気がしてきました。色んな事例を頭に叩き込んで、それを使いまわす。色んな事例や知識を叩き込む事で勝手に脳がイノベーションを起こしてくれる事もある。と言うように、ビジネスにおいて詰め込み学習は一つのエッジになるはず。誰かの体験から学ぶ事、だから本を読むのが大事なんでしょう。色んな事例を蓄えて、自分で大なり小なり行動をする。それが、ビジネスで成功する一つの確実な方法だと思います。

他にあるのは、取り敢えず自分で色々と試す事、リーンスタート的な考え方、

とにかくケーススタディ、事例、失敗事例成功事例の読み込み。これを行えば、日本はイノベーション溢れる国になれるのではないでしょうか？

考える力がなくても良い。どうしてこうなのか？と言う部分は教えてもらえば良い。教えてもらって、それを理解出来ればそれで良い。それを山ほど繰り返せば最強の脳になるはず。

考えるよりも行動する事が大事。それが日本人。アンチフラジャイルでもある。ヒューリスティックスでもある。

You wann know what to do what exactly to do. Not any big idea or unique case study. Actionable tips. Comes down to what vs how. We wanna know vhow.